



2021年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2021年5月14日

上場会社名 太洋物産株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9941 URL <http://www.taiyo-bussan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 滋
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部ジェネラル マネージャー (氏名) 宮内 敏雄 TEL 03-5946-8000
 四半期報告書提出予定日 2021年5月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第2四半期の業績 (2020年10月1日～2021年3月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年9月期第2四半期	7,768	△3.4	△5	—	△20	—	△10	—
2020年9月期第2四半期	8,046	△8.7	△106	—	△128	—	△130	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第2四半期	△7.85	—
2020年9月期第2四半期	△98.21	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年9月期第2四半期	7,445	△163	—	△123.05
2020年9月期	7,601	△158	—	△119.26

(参考) 自己資本 2021年9月期第2四半期 △163百万円 2020年9月期 △158百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年9月期	—	0.00	—	—	—
2021年9月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年9月期の業績予想 (2020年10月1日～2021年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,051	1.6	70	—	12	—	7	—	5.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年9月期2Q	1,328,219株	2020年9月期	1,328,219株
② 期末自己株式数	2021年9月期2Q	753株	2020年9月期	753株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年9月期2Q	1,327,466株	2020年9月期2Q	1,327,466株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	2
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
第2四半期累計期間	4
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	5
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス禍が収束する状況には未だ程遠く、ワクチン等の開発や接種等で蔓延防止対策がおこなわれておりますが、未だ厳しい環境にあり、先行き不安を残した中で、当第2四半期会計期間末を迎えました。

このような環境の中、当社の主要商材である食肉関連では、牛肉は産地価格の高騰に加え、営業時間の短縮要請等により客足の細っている外食産業の影響を受けて厳しい事業環境に置かれておりますが、商材等を増やすことで取扱数量・売上高とも増加させることができました。タイ産加工食品におきましても、居酒屋向けメニューの需要は減少したものの、取扱数量・売上高とも増加することができました。

鶏肉は、産地ブラジルのレアル安で輸出価格が下がり、廉価になったことから惣菜需要としての輸入鶏肉の需要は高かったものの、外食産業の低迷で利益がとりづらい状況が続き、売上高は減少いたしました。

農産品は、大豆では産地価格の高騰や、国内市況の影響で取扱数量・売上高とも減少となりましたが、玄蕎麦並びに緑豆は順調に取扱数量・売上高を伸ばすことができました。また、前期より取引を開始した中国のネット事業者向け商材の輸出販売が同国の潜在需要の高さもあり、取引数量・売上高を大幅に伸ばすことができました。

輸入豚肉に関しましては、商流等の変更があり、取扱数量・売上高とも減少となりました。

この結果、当第2四半期累計期間における売上高は77億68百万円(前年同四半期累計期間比3.4%減)、営業損失5百万円(前年同四半期累計期間は営業損失1億6百万円)、経常損失20百万円(前年同四半期累計期間は経常損失1億28百万円)、四半期純損失10百万円(前年同四半期累計期間は四半期純損失1億30百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(食料部)

牛肉につきましては、産地価格の高騰に加え、厳しい環境下にある外食産業の影響を受けて苦戦を強いられておりますが、商材等を増やすことで取扱数量・売上高とも増加させることができました。タイ産加工食品におきましても、居酒屋向けメニューの需要は減少したものの、外食チェーン店向けの販売を伸ばすことができ、取扱数量・売上高とも増加することができました。鶏肉は、産地ブラジルのレアル安で円貨での輸入価格が下がり、他の食材に比べ廉価な惣菜需要としての輸入鶏肉の需要が高かったものの、当社メインの外食産業の低迷もあり、売上高は減少いたしました。

この結果、当第2四半期累計期間での売上高は、48億1百万円(前年同四半期累計期間比5.3%増)となりました。

(営業開拓部)

農産品につきましては、大豆では産地価格の高騰や国内市況の影響で取扱数量・売上高とも減少しましたが、蕎麦並びに緑豆は順調に取扱数量・売上高を伸ばすことができました。また、前期より取引を開始した中国のネット事業者向け商材の輸出販売が同国の潜在需要の高さもあり、取引数量・売上高を大幅に伸ばすことができました。

この結果、当第2四半期累計期間での売上高は、28億67百万円(前年同四半期累計期間比115.8%増)となりました。

(生活産業部)

輸入豚肉につきましては、商流等の変更があり、取扱数量・売上高とも減少となりました。

この結果、当第2四半期累計期間での売上高は、1億円(前年同四半期累計期間比95.3%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期累計期間末の資産につきましては現金及び預金、商品の減少等に伴い、前事業年度末に比べ1億56百万円減少し、74億45百万円となりました。

負債につきましては、借入金の減少等により前事業年度末に比べ1億51百万円減少し、76億8百万円となりました。

純資産につきましては、四半期純損失の計上等により前事業年度末に比べ5百万円減少し、1億63百万円の債務超過となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前事業年度末に比べ、11百万円減少し、14億58百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、2億9百万円(前年同四半期累計期間は3億22百万円の使用)となりました。これは主に、たな卸資産6億3百万円の減少等による収入に対し、税引前四半期純損失8百万円、売上債権5億96百万円の増加等による支出によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、8百万円(前年同四半期累計期間は8百万円の獲得)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、2億29百万円(前年同四半期累計期間は1億53百万円の使用)となりました。これは主に、短期借入金2億20百万円の純減によるものです。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の通期業績予想については、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴う業績への影響が不透明であることから、現段階では2020年11月27日発表の予想数値を据え置いております。今後状況の進展及び事業の進捗を踏まえ、適正かつ合理的な算定が可能となった段階で、修正の必要が生じた場合は速やかに開示いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2021年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,470,162	1,458,771
受取手形及び売掛金	2,267,223	2,863,303
商品	2,865,288	2,261,511
その他	402,841	262,622
流動資産合計	7,005,516	6,846,208
固定資産		
有形固定資産	266,890	268,837
無形固定資産	15,021	12,936
投資その他の資産	314,242	317,441
固定資産合計	596,154	599,215
資産合計	7,601,671	7,445,424
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	699,660	727,837
短期借入金	6,501,858	6,280,979
未払費用	283,550	283,562
その他	110,987	147,004
流動負債合計	7,596,057	7,439,384
固定負債		
退職給付引当金	123,066	126,265
その他	40,870	43,127
固定負債合計	163,937	169,393
負債合計	7,759,995	7,608,778
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,344,975	1,344,975
資本剰余金	1,306,916	1,306,916
利益剰余金	△2,807,742	△2,818,171
自己株式	△969	△969
株主資本合計	△156,819	△167,248
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	△1,504	3,894
評価・換算差額等合計	△1,504	3,894
純資産合計	△158,323	△163,353
負債純資産合計	7,601,671	7,445,424

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
売上高	8,046,523	7,768,834
売上原価	7,897,126	7,569,355
売上総利益	149,397	199,478
販売費及び一般管理費	255,516	204,728
営業損失(△)	△106,119	△5,249
営業外収益		
受取賃貸料	5,839	5,243
投資有価証券売却益	10,801	1,017
助成金収入	—	6,260
為替差益	419	6,330
その他	358	1,303
営業外収益合計	17,418	20,154
営業外費用		
支払利息	34,953	30,269
その他	5,253	4,993
営業外費用合計	40,207	35,262
経常損失(△)	△128,907	△20,357
特別利益		
固定資産売却益	—	16,299
特別利益合計	—	16,299
特別損失		
本社移転費用	—	4,868
特別損失合計	—	4,868
税引前四半期純損失(△)	△128,907	△8,927
法人税、住民税及び事業税	963	963
法人税等調整額	504	538
法人税等合計	1,467	1,501
四半期純損失(△)	△130,375	△10,428

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△128,907	△8,927
減価償却費	5,863	6,700
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,858	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,902	3,199
受取利息及び受取配当金	△71	△78
支払利息	34,953	30,269
為替差損益(△は益)	△56	△429
固定資産売却損益(△は益)	—	△16,299
投資有価証券売却損益(△は益)	△10,801	△822
売上債権の増減額(△は増加)	26,099	△596,079
たな卸資産の増減額(△は増加)	424,745	603,776
仕入債務の増減額(△は減少)	△399,701	28,176
前渡金の増減額(△は増加)	△101,329	△37,921
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	98,021
未払費用の増減額(△は減少)	△81,927	12
未払消費税等の増減額(△は減少)	△35,325	92,086
その他	△22,059	35,346
小計	△286,474	237,031
利息及び配当金の受取額	71	78
利息の支払額	△33,220	△28,096
法人税等の支払額	△2,898	△1,927
法人税等の還付額	—	2,169
営業活動によるキャッシュ・フロー	△322,522	209,255
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△16,302
有形固定資産の売却による収入	—	26,040
投資有価証券の取得による支出	△101,782	△151,074
投資有価証券の売却による収入	112,583	151,897
その他	△2,498	△2,092
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,302	8,468
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△145,092	△220,879
長期借入金の返済による支出	△8,340	△8,666
財務活動によるキャッシュ・フロー	△153,432	△229,545
現金及び現金同等物に係る換算差額	56	429
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△467,594	△11,391
現金及び現金同等物の期首残高	2,846,384	1,470,162
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,378,790	1,458,771

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自2019年10月1日 至2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注)1	四半期損益計算 書計上額(注)2
売上高					
外部顧客への売上高	4,555,579	1,328,291	2,162,652	—	8,046,523
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,555,579	1,328,291	2,162,652	—	8,046,523
セグメント利益又は損失(△)	△22,163	△9,879	16,760	△90,837	△106,119

(注)1.セグメント利益又は損失の調整額△90,837千円は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自2020年10月1日 至2021年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	食料部	営業開拓部	生活産業部	調整額 (注)1	四半期損益計算 書計上額(注)2
売上高					
外部顧客への売上高	4,801,035	2,867,255	100,544	—	7,768,834
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,801,035	2,867,255	100,544	—	7,768,834
セグメント利益又は損失(△)	29,582	60,832	△11,546	△84,117	△5,249

(注)1.セグメント利益又は損失の調整額△84,117千円は、報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。